

《研究ノート》

起業家情報とリテラシー¹

林 徹

Abstract

This paper shows some results of the research which we have conducted in 2020-2021. Respondents to Google-forms of our questionnaires are some 100 persons, who are either graduate/students, post-graduate/students, or members of the staff of Nagasaki University. The foci of the research are the impacts of entrepreneur information through media, e.g., website, YouTube, animation, etc., on their interest in start-ups including side businesses, and on the business literacy of those who themselves have filled in questionnaires. Based on their responses, on the one hand, our hypotheses have been supported in part. That is, their interest in their own start-ups including side businesses will be enhanced, and that their interest in others' start-ups will be also enhanced. But it is not enough for our data to clarify the impact of entrepreneur information on the business literacy of respondents. On the other hand, we have found that those whose business literacy is poor are students regardless of his/her major; and not poor are graduate students, graduates, or members of the staff. In the last part, in the light of role models in entrepreneur information which have both hedonic and eudaimonic stimuli unevenly, the direction for future research is discussed.

Keywords : entrepreneur information, business literacy, start-ups, side businesses, role models

1 本稿は「長崎大学令和2年度研究支援経費」による成果の一部です。

1 問題の所在

われわれは、経済人に基づく資本の論理ではなく、経営人に基づく別の論理によって、資本の論理では説明がつかない離合集散に注目してきた（林, 2000, 2005, 2011, 2019, 2021）。

広い意味での経営人モデル²に関して、近年のポジティブ心理学（小林, 2021）において指摘されている、幸福を構成する2要素、すなわちヘドニックな刺激とユーダイモニックな刺激は、おおむね、ハーツバーグ(Herzberg, 1966)による2要因、すなわち衛生要因と動機づけ要因にそれぞれ対応しているように思われる。

多角化戦略などと同様に、起業・副業・兼業（以下、起業等という）は離合集散のいわば動力の1つである。そのような動力を背景とする離合集散は既存の組織均衡を更新しうる（Galbraith and Nathanson, 1978）。

起業等の条件は、起業教育によって育成されるリテラシー（マーケティング・会計・税・社会保障などの知識やスキル）を含むものと、起業家学習³で主体的に育まれる起業家マインドを含むもの（態度・人脈形成・意思決定などの資質）の双方を、プレイヤーがキャリアのなかで身につけながら成長することである（川名, 2014）。

ただし、川名（2014）は双方の相互密接な関係を指摘するにとどまっている。たとえば、先にリテラシー教育を受けるなど、両特性を身につける順序によってどのような影響があるかについては明らかにしていない。また、成長しようという意図は所与とされている。したがって、何がキャリアや成長

2 伝統的な経済人仮説、経済人モデルに対しては、社会人、複雑人、意味充実人、などの諸モデルが問われている（寺澤, 2012）が、ここではそれらをまとめて経営人とする。

3 たとえば、起業教育をoff-JT、起業家学習をOJTとみればわかりやすい。後者は、理論的にはレイヴ&ウェンガー（Lave and Wenger, 1991）による「状況に埋め込まれた学習」の一態様である。

の契機となるかは未解明である。

副業に焦点を当てた研究によれば、起業等の理由には大きく2つある。経済的に生活を支えるためにという事情と、生きがいの追求や夢・希望を叶えたいという動機である(川上, 2021)。本研究では後者に注目している。なぜなら、前者は、組織均衡の更新を伴う動力になるとは考えられないからである。もっとも、前者と後者の双方が共存するケースはある。たとえば、後に大物となる芸人、後にスーパースターとなるミュージシャン、後に真打ちとなる落語家、などの駆け出しのころがその具体例である。

本稿の目的は、こうした問題意識を背景として、筆者が独自に実施したアンケート調査⁴の結果の一部を紹介したうえで、今後の研究課題を具体的に明らかにすることである。

起業者特性	起業教育によって育成されるもの ¹ (経済や経営などの専門知識や業種特化スキルなど)
	起業家学習で主体的に育まれるもの ² (リーダーシップ、人的ネットワーク形成力、問題発見力など)

図1 起業者特性における両面性

出典：川名(2014, p. 61)を参考に筆者作成

注1 マーケティング・会計・税・社会保障などのリテラシーも含まれる。

注2 起業家マインド(古澤, 2012)も含まれる。

2 アンケート調査の結果

本研究における調査の目的は次の2つであった。第1に、起業者情報(起業者の①自伝、伝記、社史などを読むこと、または、それら以外の、②YouTubeなどの動画、マンガ、インタビュー映像、などの媒体を見聞きすること)が、起業(副業・兼業を含む)意欲に与える効果を測ること。第2に、

4 調査の目的、対象、方法、項目、実施時期、回答者の所属・人数、については付録1-5を参照。

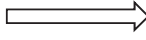

			リテラシー	
			軽視・貧弱	重視・豊富
			豊富な経験/要請 	
起業 意欲	高	 豊富な 企業家 情報	起業希望者・起業準備者	新しい働き方の目標
	低		起業無関心者等	専門職等

図2 アンケート調査の背景

出典：働き方改革実現会議（2019）を参考に筆者作成

リテラシー（簿記・会計，税，社会保障）と起業意欲の関係を測ること。

この調査における当初の問題意識は次のようなものであった。先に十分な起業教育を経ることでリテラシーが豊富ないわゆる「あたまでっかち」のケースと，そのようなリテラシーに乏しいまま起業等への勢いと着手が先行するケースとを比べると，起業家情報が起業等の動機に与えるインパクトはどちらが大きく長期的な「経営の視点」につながるか⁵。

結論を端的に言えば，第1の目的はおおむね達成できた。すなわち，もともと起業等に一定の関心のある回答者が，起業家情報に接した後，起業に対する関心が向上しており（約25%），また，身近な人からの起業相談に対する関心が向上している（約17%）。

しかし，第2の目的は，これを検証するには期間が決定的に不足しており，長期の調査期間と豊富なパネルデータを要することがわかった⁶。

5 そのような問題意識の背景には次の想定がある。ひとたびリテラシーに明るくなると，税率等に敏感になり，起業等を通じてひたすら「稼ぐ」ことに対して及び腰になる。逆に，リテラシーに明るくないからこそ，邪念なしにその事業に没頭できる。

6 ただし，フェイスシートに反応した者だけが対象であること，長崎大学の学生・院生・職員・OBOGに限定されていること，予算執行の期限などから，相応のバイ

表1 起業者情報をふまえて起業に対する関心が向上したと回答した者

所属	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	母数	割合
年齢階層	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬			1								1	8	12.5%
環境水産												5	0.0%
教育		1									1	2	50.0%
経済	3	5	3	8							19	62	30.6%
院生					1						1	5	20.0%
工												4	0.0%
卒業生・職員						1		1			2	15	13.3%
多文化		1									1	1	100.0%
計	3	7	4	8	1	1		1			25	102	24.5%

表2 起業者情報をふまえて身近な人からの起業相談に対する関心が向上した回答した者

所属	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
年齢階層	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬			1	1							2	8	25.0%
環境水産			1									5	0.0%
教育												2	0.0%
経済	2	3	1	3							9	62	14.5%
院生												5	0.0%
工			1									4	0.0%
卒業生・職員			1		2						3	15	20.0%
多文化		1										1	0.0%
計	2	4	5	4	2						17	102	16.7%

他方で、調査前には予想していなかった発見事実をいくつか指摘できる。

第1に、回答者は起業等に大なり小なり一定の関心がある。にもかかわらず、現役学部生の大半においてリテラシー（簿記・税・社会保障）がおしなべて乏しい。加えて、自身の帳簿（家計簿または小遣い帳）をつけていない者が1割程度存在する。

第2に、新卒一括採用が主体であるわが国においては、源泉徴収と年末調整を通じてはじめて、勤労者が税・社会保障の重みを体感するというケースが多いであろう。とりわけ住民税は1年遅れで特別徴収されるため、多かれ少なかれ生計に影響を与える。それらに対して、一般に、簿記に関する知識⁷

アスがある。

7 林（2019）第10章を参照。

は必ずしも社会人経験を前提とするものではなく、教養科目においても選択科目として配置されている。にもかかわらず、現役学部生の半数以上においてその知識は総じて乏しい。経済学部にあっては、学部基礎の選択科目とはいえ、学部生の5割程度である⁸。

そもそも回答者が起業に関心を寄せているというバイアスを考慮しても、学部学生全体を母集団とすると、簿記の知識の実態はいったいどの程度なのか。大いに懸念が残る⁹。

他方で、こうした懸念とは対照的に、院生（社会人を含む）・卒業生・職員の大半において、リテラシー不足が目立つことはなく、また帳簿をつけている割合も高い。

ただし、起業等の契機に対する影響からみたばあいに、以上の発見事実が、ポジティブであるのかネガティブであるのかを明言することはできない。と

表3 人生のいずれかの時点において起業したいと回答した者

所属	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
年齢階層	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬			1								1	8	12.5%
環境水産												5	0.0%
教育											2		0.0%
経済		2	1	1							4	62	6.5%
院生												5	0.0%
工	1										1	4	25.0%
卒業生・職員												15	0.0%
多文化												1	0.0%
計	1	2	2	1							6	102	5.9%

8 たとえば、簿記の成績がAAまたはAではなかった、検定を受けたことがない、目下再挑戦の準備中、などの理由により、控えめに回答した者が一定の割合で含まれていることも考えられる。

9 加えてこのほど、受験者数が少ないという理由により、2025年の大学入試共通テストで「簿記・会計」と「情報関係基礎」の廃止が検討されていると報じられた。大学入試センターによれば、選択科目における科目別受験者数をみると、令和時代（旧センター試験を含む）に限れば、情報関係基礎はたしかに300人程度で推移している。けれども、フランス語、ドイツ語、韓国語、中国語、がせいぜい100人程度から700人弱であるのに対して、簿記・会計は1,300人前後で推移している。

表4 人生のいずれかの時点において起業する心構えがあると回答した者

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬		1	2								3	8	37.5%
環境水産			1								1	5	20.0%
教育											2		0.0%
経済	4		2	4							10	62	16.1%
院生											5		0.0%
工											4		0.0%
卒業生・職員			1		1	1					3	15	20.0%
多文化											1		0.0%
計	4	1	6	4	1	1					17	102	16.7%

表5 簿記の知識がないまたは乏しいと回答した者

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬		1	4	2	1						8	8	100.0%
環境水産	1	2									3	5	60.0%
教育		2									2	2	100.0%
経済	10	9	4	9							32	62	51.6%
院生					1						1	5	20.0%
工	1		1								2	4	50.0%
卒業生・職員		1		3		1					5	15	33.3%
多文化		1									1	1	100.0%
計	12	16	9	14	2	1					54	102	52.9%

というのは、リテラシーは必ずしも起業等の前提条件ではないからである¹⁰。

川名(2014)が言うように、リテラシーについては、プレイヤーがキャリアと成長の長い過程において身につけていけばそれで足りる。

事実、ビル・ゲイツ、スティーブ・ジョブズ、マーク・ザッカーバーグ、ジェフ・ベゾス、ジャック・マー、イーロン・マスクなどの著名な創業経営者はビジネススクールで経営学修士号(MBA)を取得していない。

しかし、逆に、イーロン・マスク、フィル・ナイト、スコット・マクリーニ、マイケル・ブルーンバーグ、フランク・バットン、トニー・フェルナンデスなどのようにMBAホルダーである創業経営者も少なくない。

¹⁰ 林(2021)第2章を参照。

表6 税の知識が少しまたは十分あると回答した者

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬			1								1	8	12.5%
環境水産	1		1								2	5	40.0%
教育		1									1	2	50.0%
経済	6	1	5	2							14	62	22.6%
院生						2	2				4	5	80.0%
工	1		1								2	4	50.0%
卒業生・職員			2		6	1			2		11	15	73.3%
多文化												1	0.0%
計	8	2	10		6		2				28	102	27.5%

表7 社会保障の知識が少しまたは十分あると回答した者

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬			2	1							3	8	37.5%
環境水産			1								1	5	20.0%
教育		1									1	2	50.0%
経済	4	2	3	4							13	62	21.0%
院生						2	2				4	5	80.0%
工												4	0.0%
卒業生・職員				1	6	1			2		10	15	66.7%
多文化												1	0.0%
計	4	3	6	6	6	3	2		2		32	102	31.4%

表8 帳簿をつけていないまたは帳簿の目的なしと回答した者

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	分母	割合
	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60			
医歯薬		1									1	8	12.5%
環境水産												5	0.0%
教育												2	0.0%
経済	1	1	2	6							10	62	16.1%
院生												5	0.0%
工												4	0.0%
卒業生・職員				1				1			2	15	13.3%
多文化												1	0.0%
計	1	2	2	7				1			13	102	12.7%

3 ロールモデルによる起業者学習の可能性

国際的にみても周囲に起業者・経営者が少ない状況（中小企業白書，2017，第2-1-8図）にあって¹¹，豊富な起業者情報は開業率向上に寄与すると期待されている（中小企業白書，2019）。中小企業白書（2017）第2-1-17図「起業者教育と起業への関心」に基づいて起業希望者・起業準備者と起業無関心者（過去の起業関心者を除く）を比べると表9の通りである¹²。

回答者のうち起業希望者・起業準備者は起業者マインドを有していると推定される。起業者マインドとは，起業者や起業者的活動をする者，しようとする者が保持する心意気とでも表現すべき，態度や精神，能力のこと（古澤，

表9 起業希望者・起業準備者と起業無関心者の関心上位

起業希望者・起業準備者の関心の上位5つ		起業無関心者の関心の上位5つ	
*起業者に関する本（自伝等）を読む	36%	**簿記や金融に関する知識の習得	14%
**簿記や金融に関する知識の習得	34%	*リーダーシップを育成する教育	9%
**マーケティングに関する知識の習得	30%	**マーケティングに関する知識の習得	8%
*企業・商店における職場体験	29%	*企業・商店における職場体験	7%
*リーダーシップを育成する教育	25%	*起業者に関する本（自伝等）を読む	5%

出典：中小企業白書（2017）より筆者作成

注 **は起業教育によって，*は起業者学習で主体的に，それぞれ育成される。

11 出口（2020）によれば，日本人が起業を避けてサラリーマンを続ける根本原因には，無意識の偏見として大企業信仰と女性差別の2つがある。大企業信仰の背景の1つ，わが国固有の源泉徴収制度に代表される税制度が起業回避行動に与える影響については，別稿に譲ることとする。

12 起業等における起業者に対して，確立された企業における中間管理職には，(1) 会計・IT・法務の各リテラシー，(2) プレゼンテーション・コミュニケーション・交渉・リーダーシップ・向上心などのヒューマン・スキル，(3) 道徳準則の創造（Barnard, 1968）と理論的には同じとみられるコンセプトual・スキル，が求められる（天野，2021）。これらの順序が，起業等の文脈においては逆順であるとみれば，表9の内容を整合的に解釈できるように思われる。

2012)である。それはまた、人脈形成・意思決定などの資質と並んで、起業家学習を通じて身につけられるものの一部(川名, 2014)である。

これに対してリテラシーとは、たとえば、マーケティング・会計・税・社会保障などの知識やスキルを指しており、起業教育を通じて理論的伝達が可能なる形式知、経済や経営のハウツーなど(川名, 2014)である。

起業家情報とは、故人を含めて自然人たる起業家に関係するコンテンツである。個人的な人脈や講演等で直接、接することができるケースもなくはないが、中小企業白書(2017)で指摘されているように、たいいてはメディアを通じて知ることができるにとどまる。

起業家情報の根幹をなす起業家は、それ自体、さまざまなメディアを通じて、本人の意図とは関係なしに、個々の起業家情報に触れる者に対してロールモデルとしての役割を果たすことができる。

表10 主体的な学習3手法の比較

	メンター	行動モデル	ロールモデル
プロセスの定義	相互作用と関与 キャリア伸張への積極的な関心と行動	観察と学習 対象の能力と本人の学習意欲	同一化と社会的比較 対象への親近感と近づきたいという憧れ
対象の人数	通常1人か2人	利用可能な範囲	求めに応じて多様
特性	キャリアと精神面への影響	顕著な成果につながる職務遂行のスキル	役割期待、自己概念の定義
相互作用の期間	通常長期	短期	多様
選択肢の数	状況に応じるも、やや高い	ほとんどない	きわめて高い
気づき	双方とも	双方とも	観察者のみ一方的

出典：Gibson, 2004, p. 137を一部修正

ロールモデルは、ギブソンによれば、企業・商店における職場体験などを通じてリーダーシップを育成する教育、すなわち相互作用が求められる行動モデルやメンター(メンタリング)と比べると、次の点で異なる。すなわち、

受け手側の一方的な認識で足り、時間も場所も問われない (Gibson, 2004)。

したがって、ロールモデルは、受け手側の都合で起業家学習を可能とし、人々の成長やキャリアに影響を与えることができる (e.g., Scherer et al., 1989; Van Auken et al., 2006; Radu and Loué, 2008; Bosma et al., 2012)。

この点、ロールモデルを含む起業家情報は、金銭的欲求を刺激するヘドニックな面も少なくないものの、希望や生きがいにつながるユーダイモニックな刺激の宝庫でもある。

幸福の概念を学際的に探る近年のポジティブ心理学 (小林, 2021) にしたがえば、ヘドニックな刺激には短い・浅い・低いという特徴があり、ユーダイモニックな刺激には長い・深い・高いという特徴がある¹³。起業家学習で主体的に育成される点からみれば、起業等の契機と親和的なのは後者である。

本研究の調査においては、起業家情報から得られるこうした2つの刺激を峻別していなかった。同じ起業家情報であっても、受け手側が異なれば、受ける刺激の内容は同じとは限らない。また、同じ受け手であっても、加齢とともに、あるいは置かれた社会的・個人的な状況ないし認知枠組みの変化とともに、受け取る刺激の内容が変化する可能性もある。

であるがゆえに、一定のサンプルの規模と、受け手の属性や置かれた状況の観点からデータが与えられれば、何らかの意味のある傾向を抽出できるかもしれない。同時に、起業家情報の特性を記述することも可能となるように思われる。

13 時間の長い・短いの区分はやや曖昧さが残るが、高瀬 (2006) による無定型・有界型の区分と同等とみれば整合的であるように思われる。

4 小 括

われわれは、経営人に基づく別の論理によって、資本の論理では説明がつかない離合集散に注目している(林, 2000, 2005, 2011, 2019, 2021)。ポジティブ心理学(小林, 2021)において指摘されている, 幸福を構成する2要素, すなわちヘドニックな刺激とユーダイモニックな刺激は, 起業家情報に含まれているように思われる。しかし, 本研究の調査では, 起業家情報におけるそれら両面を峻別していなかった。

川名(2014)によれば, 起業等の条件は, 起業教育によって育成されるリテラシーを含むものと, 起業家学習で主体的に育まれる起業家マインドを含むものの双方を, プレイヤーがキャリアのなかで身につけながら成長することである。しかし, 双方の相互密接な関係はその指摘にとどまっており, 先後か同時並行かで, どのような差があるかは不明である。また, 成長の意図は所与とされており, 何がキャリアや成長の契機となるかは未解明である。

本調査はこうした問題の解明を意図していたものの, 必ずしも十分ではなかった。それを補うには長期的なパネルデータが不可欠である。

他方で, 起業等の理由には, 経済的に生活を支えるためという事情と, 生きがいの追求や夢・希望を叶えたいという動機の2つがある(川上, 2021)。組織均衡の更新を伴う動力になるのは后者であり, また后者はロールモデルと関係している。起業家情報には, ヘドニックな刺激とともに, 豊富なユーダイモニックな刺激を含むロールモデルが含まれている。

今後の研究課題は, たんに起業家情報に触れることによる起業等への関心の効果ではなく, 次の通りである。第1に, 特殊個別的な起業家情報に含まれるヘドニックな刺激とユーダイモニックな刺激の特性の傾向を明らかにすることである。第2に, 起業家情報に含まれるロールモデルの特徴とその影響の傾向を明らかにすることである。

参考文献

- 天野雄介編著 (2021)『管理職のための実践スキル講座』中央経済社.
- Barnard, Chester I. (1968) *The Functions of the Executive*, 30th anniversary edition with an Introduction by Andrews, Kenneth R., Cambridge, MA: Harvard University Press (Originally in 1938). (山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳『新訳・経営者の役割』ダイヤモンド社, 1968.)
- Bosma, Niels, Hessels, Jolanda, Schutjens, Veronique, Van Praag, Mirjam, and Verheul, Ingrid (2012) "Entrepreneurship and role models," *Journal of Economic Psychology*, Vol. 33, Issue 2, pp. 410-424.
- 中小企業庁 (2017)『中小企業白書』(2021年6月2日閲覧)
<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H29/h29/index.html>
- 中小企業庁 (2019)『中小企業白書』(2021年6月2日閲覧)
<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2019/2019/index.html>
- 大学入試センター「受験者数・平均点の推移(本試験)平成30年度～令和2年度センター試験」(2021年6月2日閲覧)
<https://www.dnc.ac.jp/center/suii/h30.html>
「志願者数・受験者数等の推移」
<https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/suii/suii.html>
- 出口治朗 (2020)「日本人が起業を避けてサラリーマンを続ける根本原因」PRESIDENT Online (2021年6月2日閲覧)
<https://president.jp/articles/-/40331?page=3>
- Galbraith, Jay R. and Nathanson, Daniel A. (1978) *Strategy Implementation: The Role of Structure and Process*, St. Paul, MN: West Publishing Co. (岸田民樹訳『経営戦略と組織デザイン』白桃書房, 1989.)
- Gibson, Donald E. (2004) "Role models in career development: New directions for theory and research," *Journal of Vocational Behavior*, Vol. 65, Issue 1, pp. 134-156.
- 働き方改革実現会議 (2019)「働き方改革実行計画」(2021年6月2日閲覧)
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hatarakikata/index.html>
- 林徹 (2000)『革新と組織の経営学』中央経済社.
- 林徹 (2005)『組織のパワーとリズム』中央経済社.
- 林徹 (2011)『協働と躍動のマネジメント』中央経済社.
- 林徹 (2019)「離脱, 発言, および組織の重心: 1920年前後におけるGM社の考察」経営学史学会編『経営学の未来: 経営学史研究の現代的意義を問う』第26輯, pp. 114-124.
- 林徹 (2021)『協働の経営学(第2版)』中央経済社.
- Herzberg, Frederick (1966) *Work and the Nature of Man*, Cleveland, OH: World Pub-

lishing.

- (北野利信訳『仕事と人間性：動機づけ-衛生理論の新展開』東洋経済新報社, 1968.)
- 川上淳之 (2021) 『「副業」の研究：多様性をもたらす影響と可能性』慶應義塾大学出版会.
- 川名和美 (2014) 「我が国の起業家教育の意義と課題：『起業教育』と『起業家学習』のための『地域つながりづくり』」『日本政策金融公庫論集』第25号, pp. 59-80.
- 小林正弥 (2021) 『ポジティブ心理学：科学的メンタル・ウェルネス入門』講談社.
- 古澤和行 (2012) 「起業家マインドの涵養に係る活動とその評価にまつわる諸問題に関する論攷」愛知学院大学『経営管理研究所紀要』第19号, pp. 11-23.
- Lave, Jean and Wenger, Etienne (1991) *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge, UK: Cambridge University Press. (佐伯胖訳『状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加』産業図書, 1993.)
- Radu, Miruna, and Loué, Christophe (2008) “Motivational impact of role models as moderated by ‘ideal’ vs. ‘ought self-guides’ identifications,” *Journal of Enterprising Culture*, Vol. 16, No. 4, pp. 441-465.
- Scherer, Robert F., Adams, Janet S., Carley, Susan S., and Wiebe, Frank A. (1989) “Role model performance effects on development of entrepreneurial career preference,” *Entrepreneurship: Theory and Practice*, Vol. 13, Issue 3, pp. 53-71.
- 高瀬武典 (2006) 「組織変革と組織進化：組織分析における『時間』の位置づけ」『組織科学』第39巻第4号, pp. 4-11.
- 寺澤朝子 (2012) 『個人と組織変化：意味充実人の視点から (改訂版)』文眞堂.
- Van Auken, Howard, Stephens, Paul, Fry, Fred L. and Silva, Jaime (2006) “Role model influences on entrepreneurial intentions: A comparison between USA and Mexico,” *The International Entrepreneurship and Management Journal*, Vol. 2, Issue 3, pp. 325-336.

付録1 回答者の属性

回答者	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	割合
年齢階層別	21未満	21未満	21-30	21-30	31-40	31-40	41-50	41-50	51-60	51-60		
医歯薬		1	3	3	1						8	7.8%
環境水産	2	2	1								5	4.9%
教育		2									2	2.0%
経済	19	19	12	12							62	60.8%
院生					1	2	2				5	4.9%
工	2		2								4	3.9%
卒業生・職員			2	1	6	3		1	2		15	14.7%
多文化		1									1	1.0%
計	23	25	20	16	8	5	2	1	2		102	
割合	22.5%	24.5%	19.6%	15.7%	7.8%	4.9%	2.0%	1.0%	2.0%	0.0%		

付録2 回答者が触れた起業家情報の対象人物一覧（順不同）

リチャード・ブランソン	稲盛 和夫	渋沢 栄一	池田 純	本田宗一郎
アンドリュー・カーネギー	加藤 翔太	出口 治明	竹花 貴騎	矢沢 永吉
イロン・マスク	菊池 紳	小倉 昌男	中村 彬	矢島 里佳
ココ・シャネル	吉藤健太郎	新井 和宏	塚本 大地	柳井 正
ジェフ・ベゾス	栗原 康太	水野 学	田中 修治	澤田 秀雄
スティーブ・ジョブズ	佐藤 芳之	西村 博之	田中 仁	高田 明
ダニエル・エク	三木谷浩史	石橋正二郎	渡辺 旭	ローランド
ピーター・ティール	山田進太郎	前田 裕二	藤田 晋	
フィル・ナイト	山内 奏人	前澤 友作	藤田 田	
ポール・オーファラ	山本 重雄	孫 正義	北尾 洋二	
レイ・クロック	山本マーク豪	大須賀 祐	牧尾 英二	
ジョン・ロックフェラー	宗次 徳二	大瀬良 亮	堀江 貴文	

付録3 事前項目

所属・年齢・性別

起業家情報（自伝、伝記、ナマの経営者、動画、マンガ、など）に、

→大に関心がある・少し関心がある・あまり関心はない・まったく関心はない

現時点で、とくに関心を寄せている起業家（日本人、外国人、故人を問わず）をひとりだけ挙げるとすれば、

→記述

いま、身近な人（たち）から副業・兼業・起業すると相談を受けたとしたら、

→強い関心をもって聴いてみたい・少なくとも聴いて、対応を考える・聴いても聴かなくても、かかわりたくない

現在、家計簿とは別に、自分用の帳簿（紙媒体または電子媒体）を持っていますか。

→はい・いいえ

現在までに帳簿をつけている期間は、

→1年未満・1年以上5年未満・5年以上

帳簿をつけている目的は、（あてはまるものすべてを選んでください）

→日記の代わり・儉約・確定申告・資金調達・将来ご自身の遺族のため（相続対策）

人生のいずれかの段階で、副業・兼業・起業を経験したい（またはしたことがある）。

→はい・いいえ

現時点で、そのための心構えは

→大いにある・少しはある・どちらかといえば消極的・まったくない

現時点で、簿記・会計の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

現時点で、税の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

現時点で、社会保障（年金、保険、など）の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

付録4 事後項目

所属・年齢・性別

起業家情報の起業家名をひとりまたはひと組（フルネーム）。ただし、複数あるときはもっとも影響があったもの

→記述

起業家情報の媒体の正確かつ詳細な出典（著者、書名、出版社。URL。など）をひとつ。ただし、複数あるときはもっとも影響があったもの

→記述

（任意）読後、視聴後、または接触後の感想を100字以内でお願いします。

→記述

現時点で、起業家情報（自伝、伝記、ナマの経営者、動画、マンガ、など）に、
→大いに関心がある・少し関心がある・あまり関心はない・まったく関心はない

現時点で、とくに関心を寄せている起業家（日本人、外国人、故人を問わず）をひとりだけ挙げるとすれば、

→記述

いま、身近な人（たち）から副業・兼業・起業すると相談を受けたとしたら、
→強い関心をもって聴いてみたい・少なくとも聴いて、対応を考える・聴いても聴かなくても、かかわりたくない

現在、家計簿とは別に、自分用の帳簿（紙媒体または電子媒体）を持っていますか。

→はい・いいえ

現在までに帳簿をつけている期間は、

→1年未満・1年以上5年未満・5年以上

帳簿をつけている目的は、（あてはまるものすべてを選んでください）

→日記の代わり・儉約・確定申告・資金調達・将来ご自身の遺族のため（相続対策）

人生のいずれかの段階で、副業・兼業・起業を経験したい（またはしたことがある）。

→はい・いいえ

現時点で、そのための心構えは

→大いにある・少しはある・どちらかといえば消極的・まったくない

現時点で、簿記・会計の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

現時点で、税の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

現時点で、社会保障（年金、保険、など）の知識は

→十分ある・少しある・乏しい・まったくない

付録5 フェイスシート



調査期間：2020年10月-2021年2月

アンケート調査（報酬あり）フェイスシート

対象：長崎大学の学部学生・院生

（卒業者・修了者を含む）・職員

「起業家情報が起業マインドに与える効果」

林 徹（長崎大学経済学部）

問い合わせ先：thaya@nagasaki-u.ac.jp

I 報酬

QUO カード 4,000 円分（下記①の場合）、または 2,000 円分（下記②の場合）

事後アンケート記入の確認後、受領の署名と引き換えに手交します。

II 方法と所要時間

- (1) Google フォームへの事前アンケート記入（5分程度）
- (2) 具体的な起業家1人（組）に関する文献（下記①参照）を読む
または、具体的な起業家1人（組）に関する媒体（下記②参照）を見聞きする
- (3) Google フォームへの事後アンケート記入（10分程度）

III 内容と目的

このアンケートは下記を目的とする学術研究の一部です。

第1に、起業家情報（起業家の①自伝、伝記、社史などを読むこと、または、それら以外の、②YouTubeなどの動画、マンガ、インタビュー映像、などの媒体を見聞きすること）が、起業（副業・兼業を含む）マインドに与える効果を測ること。

第2に、リテラシー（簿記・会計、税、社会保障）と起業マインドの関係を測ること。

IV 予算制約と注意

サンプル数、①40と②70、または①50と②50、を見込んでいます。

E-mail で到着順に受け付け、回答フォームを返信します。

すでに読んだことがあるもの、見聞きしたことがあるものを、この機会にあらためて、もういちど、読む、見聞きすることでもかまいません。

同じ回答者が希望すれば最大2回（①と②の組み合わせを問わない）まで回答できます。ただし、初回の事後アンケート記入後、2～3か月、あけてください。

Google フォームに記入された回答者による情報（連絡用メールアドレスを含む）は、すべて責任者によって厳格に管理され、目的以外に用いられることはありません。

以上